

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600640		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームふるさと(青い鳥ユニット)		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	令和4年2月3日	評価結果市町村受理日	令和4年5月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0193600640-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ふるさとではアットホームな雰囲気の中で、ゆっくりとした時間を過ごして頂きながら、安心安全な中、自立支援に努めています。それぞれの能力に応じて掃除や洗濯、料理の下ごしらえなどの役割をもって頂くことで日常生活にメリハリがつき生き生きとした毎を送り、出来る事の継続が自信に繋がるようサポートしています。
 ・自立支援を基本とし、外出を通して地域との関りを楽しんで頂ける時間を提供しています。施設前には、遊歩道「木もれび道」があり散歩するには最適な環境。
 ・お一人お一人の自由と尊厳を守り、その人らしく安心して楽しく過ごして頂き個々のペースに合った暮らしを提供しながら寄り添い怒哀楽を共にし信頼し合える関係を築いていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR苫小牧駅からバスで10分程の、幹線道路に面した場所にある2ユニットのグループホームである。建物は3階建てで2階に2ユニットがあり、1階に会議室等を配置している。建物と幹線道路の間には遊歩道「木漏れ日の道」があり、気軽に散歩ができる。バス停や各種の商店が幹線道路にあり、利便性が高い。ユニット間に共通の事務所スペースがあり、互いのコミュニケーションが取りやすくなっている。各ユニット中心部には広めの食堂と談話コーナーがあり、トイレを各ユニットに4つ配置している。感染症の流行により地域交流が難しくなっているが、流行前は町内会の祭りや盆踊りに参加したり、小学生やボランティアの訪問を受けるなど、地域と活発に交流していた。収束後に再開が期待される場所である。馴染みの関係の継続については、知人との手紙や電話のやりとりを継続している利用者が多い。また、感染症の流行収束後には、菓子店など利用者が以前楽しんで来た先への外出を予定している。法人が道内で多数のグループホームを運営しており、各種のマニュアルや研修体制が整っているのも特徴である。南に面した2階の居室からは幹線道路や遊歩道が眺められ、外の雰囲気を感じることが出来る。地域との関わり合いを感じられる環境の中で、安心して生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に沿って、全職員が意識しながら日々実践に繋がられるよう努めている。	5項目からなる独自の理念の中に「ご家族や地域との結びつきを大切にします」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を玄関や各ユニットに掲示し、職員が理念を記したカードを携帯し、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年と同様に、コロナ禍のため以前の様な地域との交流は難しい状況。	利用者が散歩に出た際に遊歩道で住民と挨拶を交わしたり、近所の庭の花を見せてもらっている。感染症流行前は町内会の祭りや盆踊りに参加したり、小学生やボランティアの訪問を受けていた。収束後に再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ブログ・ホームページを発信する事で地域の方々から理解を得られるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面での報告に留まっていることもあり、話し合いの場を持つことができていない。	現在は2か月ごとの文書開催となっている。メンバーは市や地域包括支援センター、地域住民、家族で、最近では報告事項が中心となり、計画的なテーマの設定は行っていない。議事録をメンバーに送付している。	会議のテーマを計画的に設定し、テーマに関する資料をメンバーに送付して意見を収集し、運営に反映する取り組みを期待したい。外部評価結果についても運営推進会議で取り上げられることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係を築いていくため、空き状況・待機者の報告などを伝えながら連絡を密に取れるよう努めている。	提出書類があるときは管理者が市役所に出向いている。市内のグループホームの会議に市の担当者が来ることがあり、協力関係が築けている。職員が市内の認知症サポーター養成講座に協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを職員に周知して理解を得ている。又、不適切ケア防止研修を実施し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束を行っておらず、マニュアルを参考に年2回、勉強会を行っている。研修資料や報告書をより整理する予定である。不適切ケア防止委員会も3か月ごとに開催している。1階玄関を施錠しているが、利用者は2階から1階へ自由に降りることができ、外出意向があれば職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時の研修や資料・職員間での話し合いのもと、見過ごされることがないように防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修には参加できていない。内部研修として資料を配布したが、全職員が理解しているかの確認はとれていない事と、今後の課題と考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、理解・納得を得ている。又、改定時にも同様に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情を含め意見や要望を表せる窓口を設けていて、契約時に説明している。殆どの入居者様・ご家族は管理者や職員に意見を寄せて下さるので、思いを反映させる事が出来ている。	管理者が家族に電話やメールで連絡をしている。家族からの意見などを連絡ノートやタブレットで共有している。毎月、利用者ごとの手紙と写真を家族に提供している。家族は事業所のホームページでも利用者の様子を見ることができる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が働きやすい環境にしていく為にも、個人面談などを通して、不満や疑問点を聞きながら反映させるよう努めている。	現在は書面による職員同士の会議を行っている。必要に応じて管理者と職員の個別面談の機会を設けている。職員は食材管理、車両管理、行事などを分担して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が、やりがいと向上心を持って働くことが出来るよう、勤務状況を把握し職場環境の改善・見直しに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格支援制度の取り組みで、資格取得を目指す職員のバックアップに努め、スキルアップに繋げられるよう研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、そのような機会には作ることができていない。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ本人の要望に応えるべく時間をかけて信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを汲み取り出来るだけ要望に応えられるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望をしっかりと把握し、チームでの話し合いを通して「その時」必要とする支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者として関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の橋渡しができるよう信頼関係を築き、時には家族の協力を得ながら共に支えていける関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、面会や外出が制限されている為、本人との会話を通して思いを共有し関係維持に努めている。	友人や知人から手紙や年賀状、自作の写真集などが贈られる利用者があり、利用者が返事を書いている。携帯電話を持ち、知人に電話している利用者もいる。1名の利用者は家族と一緒に馴染みの美容室に通っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握しながら、職員が間に入ったり入居者同士で関わり合えるよう努めている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を無駄にすることがないよう、その時々でフォローや福祉の相談など支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人のペースを尊重し、相手の立場にたって思いや希望を把握し支援できるよう努めている。	8割ほどの利用者が言葉で思いや意向を表出でき、その他の利用者も表情や問いかけの反応から把握している。生活歴シート、アセスメントシートの作成は利用者ごとにばらつきが見られる。	生活歴や趣味・嗜好について、センター方式のアセスメントシートやADL評価表の特記事項欄を活用して情報を整理し、定期的に更新することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別ファイルを作成し、職員間で情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	注意深く一人ひとり観察し記録に残し、職員が把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で、モニタリング会議などは出来ていないが、毎月入居者の受け持ち担当職員がモニタリングを行い介護計画の作成に活かしている。又、モニタリングは手紙を添えて家族へ送付している。	毎月モニタリングを行い、6か月ごとに計画を更新している。今後は担当者会議の記録に介護目標の見直し内容も明記する方針である。タブレットによる日々の記録は、目標項目を意識して「ケース」の区分に関連する内容を記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小まめに記録を残し職員間で情報を共有するよう努め、介護計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で活動や行動に制限があり、取り組むことができていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、以前のように地域資源の活用ができなくなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の説明を行い、往診など適切な医療が受けられるよう支援している。又、元々のかかりつけ医を希望された場合は契約に基づき家族対応で継続する事が出来ている。	半数の利用者が協力医による月2回の往診を受け、他の利用者は事業所が同行し通院している。利用者ごとに受診記録を作成し、タブレットにも入力している。週3回、看護師が勤務し、健康管理を行っている。	

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態の変化など、看護師に相談して指示を仰ぎ、適切なケアが受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、状況・状態を確認しながら情報交換や相談に努め関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状、そのような体制は整っていないが、契約時に事業所の方針など説明した上で、本人・家族の意向に沿った支援が出来るよう取り組んで行きたいと考えている。	利用開始時に「利用者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印を得ている。重度化した場合は医療行為の必要のない範囲での支援を事業所で行っている。一部の職員は、看取りの研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し、職員間で共有しているが定期的な訓練は受けておらず、今後の課題として受け止めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練のみの実施となっている。今後は、地震・災害時の訓練を早期に実施できるよう取り組む。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、消防設備会社や住民の協力を得ている。今後、救急救命訓練をeラーニングで進める方針である。災害時に必要な備蓄品も用意している。一方、地震等に対する対応の確認は十分といえない。	年1回程度、地震等の災害マニュアルを参考に、初期対応やケア場面別の対応、危険個所の確認などについて職員間で話し合うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を気付けられないよう、言葉遣いに気をつけ、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。	法人研修で接遇を学び、利用者は「さん」付けで呼びかけている。日々の記録はタブレットに入力し、記録書類は書庫で保管している。申し送りは小声で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認しながら意向に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の意思を尊重しながら、無理強いする事なく生活して頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で、以前のように定期的な出張理美容は実施できていないが、清潔を保てるよう身だしなみや整容はここに合った支援が出来ている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で、食事を共にすることは出来ていないが、本人のペースで食事をして頂くことができている。出来る方には下膳や下準備をして頂いている。	法人作成の献立で、季節の行事食も提供している。利用者が、食材切り、炒めなどの調理に参加している。五平餅やホットケーキなどのおやつ作りを楽しみ、誕生日は本人の好きな献立にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理のもと、バランスの取れた食事の提供ができている。又、声掛けや介助にて食事摂取の支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別ケアによって今の口腔状態が長く保てるよう努めている。又、歯科医による様々な助言に基づきケアする事ができている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行っている。	自立している利用者も多いが、全員の排泄を記録して日中はトイレでの排泄を支援している。夜間のみベッド上で排泄用品を交換する利用者もいる。誘導時の声かけはプライバシーに配慮して小声で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取など予防に取り組んでいるが、未排便が続く場合は看護師に相談したり、主治医の指示で下剤処方によりコントロール出来ています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番での入浴となっており時間も限られてしまうが、個々の状態に沿った支援が出来ている。	毎日、午後の時間帯で一人週2~4回の入浴を支援している。身体状況に応じてシャワー浴で対応することもある。入浴剤を入れたり職員と会話をしながら入浴している。入浴を拒む場合は、声かけや本人の精神状態に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し、必要に応じてゆっくり休んでもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の把握ができるようファイルを共有している。薬が追加になったりした際には、記録・申し送りなどで共有し症状の変化など確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた生活支援を行い、出来る事を継続して頂けるよう声掛け支援している。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(青い鳥ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍に伴い、必要とされている通院や受診以外の外出はできていない。	普段は、車いすの利用者も一緒に近くの遊歩道や近隣の花壇を見ながら散歩を楽しんでいる。今年には花見ドライブも予定している。感染症収束後は近くの洋菓子店に出かけたり、登別や支笏湖方面、新千歳空港など以前楽しんでいた外出行事も増やしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、所持金を管理できるレベルの方がおられない事と事業所の方針で以前のように、お金を所持する事が出来なくなった為、個々に使用する事はなくなった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、職員が間に入り対応する事で支援出来ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、手作りカレンダーを作成し、共用空間で使用し、季節感を大切に会話を繋げられるよう工夫し実行している。	窓に面した明るい談話コーナーと食堂が分かれている広々とした造りで、冷暖房も完備されている。加湿器や除菌装置を設置し、過ごしやすい環境を整備している。壁には、利用者と一緒に制作した季節感のある鯉のぼりやカレンダーなどが飾られている。本や輪投げ、DVDなど利用者が楽しめる品々も準備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には食卓の他にも、ソファや本人用に個々の椅子を設置し、ゆっくり寛げるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた家具や寝具を持ち込んで頂き、危険のない限りで好みの物を設置し居心地よく過ごして頂けるようにしている。	使い慣れたタンスや椅子、目覚まし時計などを持ち込んだり、収納ケースを利用して使いやすいように整理している方もいる。家族の写真や思い出の品、馴染みの小物類を飾り落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口には名前を付けるなど、個々の状態に合わせて分かり易く工夫し、安全な環境作りを心掛けている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600640		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームふるさと(憩いユニット)		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年5月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ふるさとではアットホームな雰囲気の中で、ゆっくりとした時間を過ごして頂きながら、安心安全な中、自立支援に努めています。それぞれの能力に応じて掃除や洗濯、料理の下ごしらえなどの役割をもって頂くことで日常生活にメリハリがつき生き生きとした毎を送り、出来る事の継続が自信に繋がるようサポートしています。

・自立支援を基本とし、外出を通して地域との関りを楽しんで頂ける時間を提供しています。施設前には、遊歩道「木もれび道」があり散歩するには最適な環境。

・お一人お一人の自由と尊厳を守り、その人らしく安心して楽しく過ごして頂き個々のペースに合った暮らしを提供しながら寄り添い怒哀楽を共にし信頼し合える関係を築いていきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0193600640-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年4月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に理念を掲示し、職員は各々で念頭に置きながら実践に繋がられるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナの影響により地域との付き合いは出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所ホームページやパンフレットの配布などにより、理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により書面での報告になっており、意見を聞く機会は失われているが、ご家族と電話で話したり、毎月評価した結果・取り組み状況を報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、連絡を取り合い空室状況や待機者の報告をしながら協力関係を築けるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを周知し、職員はそれを理解し玄関の施錠をせず自由に出入りできるよう身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、半期に1度、不適切ケア防止研修を通して禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し徹底するよう呼びかけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時研修及び不適切ケア防止委員会や全体研修を通して、虐待が見過ごされる事がないよう虐待防止に努めている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なだけの時間を設ける事は出来ていないが、権利擁護についての研修資料として職員に配布したが深く理解できたかの確認が不十分なため、今後の課題と考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解を得ているが、稀に入居後の問い合わせ等があるため、再度分かり易く説明したうえで理解を得ている。又、改定などの際にも同様に説明し理解を得る事が出来ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情を含め意見や要望を表せる窓口を設けていて、契約時に説明している。殆どの入居者様・ご家族は管理者や職員に意見を寄せて下さるので、思いを反映させる事が出来ている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的または必要に応じて、職員から意見や提案を聞けるよう面談の時間を設けていて、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場環境の改善や見直し・条件の整備に努めているとは思っているが、人員不足が続く中で新人を抱え勤務状況は極めて厳しい事もあり、給与水準・やりがいなど各自が向上心を持って働けるような環境とは言えない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格支援制度の取り組み実施・資格取得のための研修を受けられる機会を設けスキルアップできるよう取り組んでいる。又、法人内では半期に1~2度の全体研修と個々に合った研修を実施しながら、外部の研修にも参加するよう呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、交流する機会を設ける事は出来なかった。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関りを多く持ち本人の要望に応じていけるよう努め、信頼関係を築いていけるよう意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や思いを汲み取りながら関係づくりに努め、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況・状態を把握し、本人との会話の中から必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の様な関係を築くことが出来るよう、喜怒哀楽を共にしながら出来る事出来ない事を見極め、安全な日々一緒に行える事は行い生活を共にする同士の関係を築き支え合いながら生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係は大切にし、困った時には家族の方に援助を求め協力して頂きながら一緒に本人を支えていく関係づくりが出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、難しい局面もあったが状況に応じて面会する機会を設ける事ができた。全体を通して馴染みの場所との繋がりが途切れぬような支援は実施できなかったが、家族の協力のもと自宅に一時帰宅できた方がいた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようレクリエーション等を通して入居者様同士の関りを持てるような支援を実施している。又、各々にあった制作を考え日々一緒に取り組んでいる。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、家族の方から連絡や相談があり本人や家族の経過をフォローしながら、対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とのコミュニケーションを通して、思いや希望を汲み取り把握に努め検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などの情報は個別ファイルにまとめてあり、職員はいつでも見る事が出来る状態になっているため、これまでの経過など把握に努める事ができている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態・状況を観察し職員間で共有し合い記録を取るなどして現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見や要望を反映させ、介護計画とモニタリングはファイルにまとめ共有していて、現状に即した介護計画を作成し方針に従ってケアしている。又、モニタリング(評価)は毎月家族に送付している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は詳細に残して共有し、実践している。又、介護計画の見直しにも活かす事ができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまで事業所の多機能化として、既存のサービスに捉われない柔軟な支援・サービスに取り組んできたが、コロナ禍において現状では難しくなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域資源の活用が出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医療機関の説明をし、納得を得られた方には協力医療機関による定期受診又は往診で適切な支援が出来ている。又、本人・家族の希望を大切に、馴染みの医療機関を継続している方もいる。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態の変化や気づきがあった際には、看護師に報告・相談し指示を仰ぎ適切なケアが受けられるよう支援する事ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心して治療を受けて頂きながら、出来る限りで早期に退院できるように入院先との情報交換は密にし、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階においては、実施に向けての体制が整っておらず、取り組みに至っていないが、契約時に事業所で出来る事を説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行う事が出来ておらず、新人職員が多い事から今後の課題だと考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	内部での避難訓練は実施しているが、コロナに伴い以前のように外部(地域)の協力を得る事はできていない。又、地震・災害による訓練の早期実施が課題となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには十分注意し、プライバシーに配慮した対応ができている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し自己決定の支援が出来ている。又、自己決定が難しい方にも択一出来るような声掛けを心掛け支援する事ができている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して職員側の都合を優先しない事を徹底し、本人のペースを乱さず危険のない限りで希望にそった過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みやセンスを把握し、その人らしい身だしなみや整容を支援する事ができている。又、コロナ禍で出張理美容の実施が制限されていた事で散髪は1年ぶりに実施できた。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じ、野菜の皮むきや下処理・味付け・味見など出来る事は行って頂きながら、職員と一緒に片付けなども行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスなど十分な接種の確保に努めている。又、一人ひとりの状態や習慣に応じて支援する事ができている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と就寝前には口腔ケアの促しを行い、本人の力に応じて自立・一部介助で口腔ケアが出来ている。又、口腔衛生管理加算に伴い、口腔ケアマネジメント計画を立て歯科医師による助言を職員間で共有し口腔ケアに活かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方が多く、本人の意思で排泄を行っているので誘導などは余りなく記録を共有している。又、紙パンツ使用の方もトイレで排泄する事ができている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足による便秘の際には、水分摂取の促しを行い、又、看護師や主治医に相談し薬剤にてコントロールする事ができている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	以前は、午前・午後・夜と時間を決めずに入浴の提供が出来ていたが、現状では午後入浴とし時間に限りがあるため個々の希望を取り入れる事は難しい。稀に、午前・午後の2回に分けて提供する日もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状態の把握に努め、休息や十分な睡眠が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要に応じて、職員はいつでも薬剤情報を確認する事が出来る環境にあり、定期薬に追加や中止があれば申し送り等で共有し状態の変化を確認し記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたい事や出来る事を継続して頂けるよう、有する力に着目し張り合いのある日々を過ごすことができるよう声掛けを行っている。又、役割・嗜好品・楽しみ事など個々にあった支援をしている。		

ふれあいの里グループホームふるさと

自己評価	外部評価	項目	自己評価(憩いユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出は必要とされた通院・受診以外で一切できていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している方は数名おられるが、使う機会が持てていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自由に電話を掛けられる環境にあるため、ご家族と話す事が出来るよう支援している。又、個人で携帯電話を所持している方は自由に家族や知人と連絡を取っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、清潔感を保ちながら不快や混乱を招くような刺激などなく、生活感や季節感を取り入れるための装飾の制作を入居者と共に行い都度張り替えなどして心地よく過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他、ソファや椅子も設置しており、思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、馴染みの物・写真などを飾り心地よく過ごせる空間となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が迷う事のないよう、居室入口に名前や目印になるものをつけるなどし、個々の状態に応じて工夫している。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームふるさと

作成日：令和 4年 5月 12日

市町村受理日：令和 4年 5月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍で文書開催となっている。近況報告が中心となっていて、取り組み状況などについての話し合いや意見を収集する事が出来ていない事から、サービスの向上に活かしきれしていない。今後は、書面による開催であっても意見を収集できるような内容を考え実施していく。	関係者から意見を収集し、運営や日常的な日々のケアに反映させながらサービス向上に活かしていけるよう取り組んで行く。	興味を持って頂けるような会議のテーマを計画的に設定し、運営推進会議の資料と一緒に送付して意見を収集できるよう返信用封筒も同封し、できるだけ多くの意見を頂けるよう取り組んで行く。	1年
2	23	個々の思いや意向の把握は出来ているが、入居時の情報収集の段階で、利用者ごとに生活歴シート・アセスメントシートの作成にバラつきがあり、定期的な更新もされていない。今後は、書式を揃えて状態に応じて見直し更新していく。	状態の変化や暮らし方など、日々の生活のあり方を小まめに観察し、職員間で情報を共有していきケアプランの作成に活かしていく。	生活歴や趣味・嗜好などについて、センター方式のアセスメントシートやADL評価表を活用して情報を整理し、センター方式の様式B-3・D-1・D-2シートは定期的に更新していき、ケアプラン作成と共により良いケアの向上に活かせるよう取り組んで行く。	1年
3	35	非常災害対策計画やマニュアルを活用して把握できるよう努めていたが、全職員が把握しているかまでの確認は出来ていない事から、避難対策など職員全体で身に付けるまでに至っていない。今後は、計画的な訓練の実施に取り組んで行く。	職員全員が、災害時における緊急対応ができるよう身に付け、対処法などを把握できるようにしていく。	地震などの災害マニュアルを参考にしながら、会議などを通して話し合い、全職員の意識を高められるよう取り組む。又、部屋の中で危険物がないか事前に確認を行い、職員間で共有する。救命救急の研修計画を立て実践できるよう取り組んで行く。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。